

## 令和5年度 学校総合評価

### 6 今年度の重点目標に対する総合評価

今年度の重点目標としては、学習活動の項目から、「砺波学園との連携による学習指導の充実」と、「ICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」の学習活動の充実」の2項目を挙げた。重点項目の評価については、「学校アクションプラン」に記載のとおり、達成度及び具体的な取組状況から総合的に判断して、2項目とも達成できたと考えており、学校評議員からも同様の意見を得た。

学校評議員会では、砺波学園との連携に関する事柄において、学園職員と学校教員の勤務形態の違いからスムーズな連携ができなかったのではないかと心配の声も上がったが、ケースに適した連携方法を模索しながら、家庭生活の拡大につながるよう実践を蓄積することの重要性が確認された。ICTを活用した学習活動の充実については、時代に即した取組であることと、その学習状況を保護者に分かりやすく情報提供する工夫を求める意見が出された。また、教員の資質向上のための参考として、異業種である評議員の方々のそれぞれのスキルアップの方法について伺った。

### 7 次年度へ向けての課題と方策

今年度の学校総合評価の結果に基づき、本校の現状と課題について更に検討し、次年度へのよりよい方向性の模索と、目標の達成及び内容の向上を目指す。

- ・ 児童生徒の育成のためには、砺波学園とその施設隣接校である学校との連携の大切さを再確認することができた。来年度においても一層砺波学園と連携し、ICTや地域資源の活用を含め、児童生徒の実態に合った指導方法や教材を工夫して繰り返し指導を行いながら、学習や生活スキルの拡大と定着を図っていきたいと考える。
- ・ 防災教育に関して、児童生徒の安全確保にはこれまでも努めてきているが、地震災害に備え児童生徒一人一人ができる安全確保や備えについては、能登半島地震を受けて見直しが必要とされる場所である。
- ・ 学校アクションプランを含む様々な教育活動が、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じたものとなるよう教育環境の整備に努める必要がある。児童生徒たちがそれぞれの目標を達成できる学校にするために、家庭や砺波学園及び地域と共に歩む学校として、教職員が協力して教育活動を推進することができるように、更に校内体制を整える。

## 8 学校アクションプラン

令和5年度 となみ東支援学校アクションプラン1 -教務部-	
重点項目	学習活動
重点課題	砺波学園との連携による学習指導の充実
現 状	<p>本校の児童生徒は、全員が隣接する砺波学園（以下、学園）に入園し、通学している。学園とは、登下校時に児童生徒の様子や依頼事項等を担当者間で伝え合ったり、年3回の懇談時に「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」（学校）、「個別支援計画」（学園）の目標や評価について共通理解したりするなどして、教育の充実と一貫性を図っている。</p> <p>児童生徒は、家庭の養育状況等の諸事情によって学園に入園しており、日常生活の中で未経験な事柄が多い現状にある。学習活動においては、学園・家庭生活に結び付く实际的・具体的な知識・技能の習得が望まれ、学園との連携をより密にして指導・支援していく必要がある。</p>
達成目標	<p>学園との連携による生活に結び付く知識・技能の育成</p> <p>取組についての記録の作成及び共有</p> <p>各学部、対象児童生徒1名</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>既得の知識・技能または各教科等において習得を目指す知識・技能の中から学園・家庭生活の拡大につながる事柄を取り上げ、学園の居室担当者等と指導及び支援方法を共有したり取組の経過について情報交換をしたりする。</li> <li>個々のケースに応じた連携方法（学園用連絡帳、電話、懇談など）を探るとともに、より効果的な指導・支援の工夫を行う。</li> <li>取組について記録を作成し、校内で共有する。</li> </ul>
達 成 度	<p>達成率100%</p> <p>各学部、対象児童生徒1名の取組について、記録を作成し、校内報告会で共有。</p>
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学部3年児童のケースでは、「長袖の衣類を畳み、決められた場所に片付けること」を目指して、学校、学園で、衣類の片付けに関する実態や支援方法を共有し、双方で目印を付けた長袖の衣類を使って、同じ支援方法で取り組んだ。中学部3年生徒のケースでは、「腕まくりから手を拭くまでの一連の手洗い動作を順序よく行うこと」を目指して、学校、学園で、手洗いに関する実態や指導方法を共有し、同じ手順表を使って取り組んだ。</li> <li>個々のケースに応じて、懇談、電話、文書（写真を掲載）などの方法で学園と連携し、指導・支援の充実を図った。</li> <li>個々の取組について、育成を目指した事柄、学園の居室担当者等とのやりとり、取組前後の児童生徒の実態、今後の課題を記載する記録を作成し、3月の校内報告会で共有した。また、個々の取組をまとめた資料を学園に提示し、共有を図った。</li> </ul>
評 価	<p>A</p> <p>学園との連携をより密にして指導・支援することで、生活に結び付く知識・技能が育成された。各学部、対象児童生徒1名の取組について、記録を作成し、校内報告会で共有した。</p>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>人によって違うが、学校を卒業した後の生活を考えると、身の回りのことを自分でできるようにすることが大切である。</li> <li>連携方法の一つとして、児童生徒の学園での生活環境や居室担当者等による指導の場面を実際に見る機会があるとよい。</li> <li>懇談など、適当な方法で情報を共有することが大切である。学園でも、職員間の情報共有を一層進めていきたい。</li> </ul>
次年度へ向けての課題	<p>対象児童生徒の担任以外の教員からも「学園との連携が学校での指導・支援の充実につながっている」といった声が聞かれており、学園との連携をより密にして指導・支援していくことの必要性を再認識することができた。今後も、児童生徒一人一人の実態やニーズを適切に把握して育成を目指す資質・能力を見定め、学園、家庭との連携をより密にして指導・支援していくことが望まれる。</p>

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和5年度	となみ東支援学校アクションプラン2 -図書研修部-	
重点項目	学習活動	
重点課題	ICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」の学習活動の充実	
現 状	<p>学習指導要領の示す「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善を行い、児童生徒が「どのように学ぶか」という学びの過程の質を高めるための研修を行ってきた。その手立ての一つとしてICT（一人一台端末）の活用を推進している。昨年度は、一人1授業ICT活用実践授業を行い、記録シートを基に教科等別のグループで検討や情報交換、有効だった活用事例の共有をした。また、2授業において、教員相互による授業参観及び意見交換、授業改善を行い、外部講師による指導助言を受けた。</p> <p>取組を通して、児童生徒の実態等に応じてICT活用の必然性や効果を考慮し精選する必要があると共通理解することができた。教員相互による授業参観及び授業改善に更に取り組み、学習活動の充実を図る必要がある。</p>	
達成目標	ICT活用実践授業の公開及び授業改善 全員1授業	授業を参観し、意見を授業者に提供 全員2回
方 策	<p>ICTを活用した授業の教員相互による参観を設定し、「目標達成につながる良い点」や「改善点」について意見交換する。意見を基に授業改善を行い、解明されたことをまとめる。必要に応じて、学部で検討・情報交換を行う。実践記録や学部の成果のまとめを校内で共有する。</p> <p>①校内での互見授業と授業改善及び指導主事・外部講師による指導助言： 学校訪問研修会（7月）（各学部1授業）、障害種別研修会（12月）（1授業）</p> <p>②校内での互見授業と授業改善：9月～1月</p>	
達 成 度	達成率100% 授業公開と授業改善が行われたの事例の数 ①体育1、保健体育1、図画工作1 ②国語3、算数・数学2、音楽2 美術1、保健体育1、生活単元学習2 計14事例 ※教諭と講師14名により取り組んだ。	達成率100% ①3つの授業それぞれに、ほぼ全員が1回以上授業参観と意見提供を行った。 ②授業公開11事例中、参観し意見提供した回数と人数（養護教諭を含む） 4回2名、3回1名、2回12名 ※教諭、講師、養護教諭15名により取り組んだ。
具体的な取組状況	<p>①ICTを活用した授業を学部ごとに決めて公開した。観点別評価規準と実際の児童生徒の姿を照らし合わせた評価や授業改善について意見の交換を行った。それを基に学部で授業改善の検討会を行った。指導主事・外部講師による指導助言も踏まえて更に授業改善し、単元終了時に成果をまとめた。</p> <p>②①で授業提供した教員以外が、校内で一人1授業公開した。参観者は直接又はビデオにて授業を参観し、授業改善に向けた意見や感想の提供を行った。授業者は、意見を基に授業改善を行い、単元終了時に成果をまとめた。</p>	
評 価	A	ICT活用実践授業の公開と授業改善を全員が行い、授業参観と意見の提供は、目標回数以上に実践された。この取組が、学習活動や支援の選択肢の一つとしてICTを活用することの促進や、学習活動の充実につながった。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の道具としてICTを十分に活用した上で、互見授業、意見交換、授業改善を行った点がよかった。</li> <li>・ICT活用の取り組みについて、保護者とも共有できるとよい。また、学習参観の機会を通して保護者に学習状況を分かりやすく伝えてほしい。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<p>児童生徒・教員共に学習活動や支援の選択肢の一つとしてICTを日常的に活用するようになった。児童生徒のICT活用について、今後、家庭と情報共有に努めたい。また、互見授業による意見交換及び指導主事や外部講師から示された助言から授業改善に取り組んだことが、学習活動の充実につながった。今後も児童生徒の学びの質を高め、日々の教育活動が充実するよう、この取り組みを生かしていきたい。</p>	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)